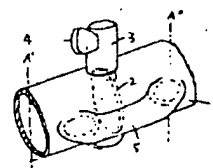

(54) DISCHARGE NOISE SILENCING RATE REGULATOR**(11) 6-221131 (A) (43) 9.8.1994 (19) JP****(21) Appl. No. 5-48504 (22) 25.1.1993****(71) YUUTO MOTOMURA (72) TOSHIHIKO KASASHIMA(1)****(51) Int. Cl.⁶ F01N1/08, F01N7/08, F02D9/04**

PURPOSE: To enhance silencing effect according to the degree of valve closing when a discharge quantity of exhaust gas is not so large as that in high rotational speed use in the case of warming-up operation or low speed rotation.

CONSTITUTION: A valve 2 is provided, and a rotatable shaft 3 and a knob 4 are provided in an exhaust pipe 1 so as to make a valve operative, and then a supporting pipe 5 is provided.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-221131

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 8 月 9 日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
F 0 1 N	1/08	Z A B A		
	7/08	Z A B B		
F 0 2 D	9/04	E		

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平5-48504

(22) 出願日 平成 5 年 (1993) 1 月 25 日

(71) 出願人 593047035

本村 有斗

東京都世田谷区桜丘 4-26-26 聖ヶ丘荘
101

(72) 発明者 笠島 敏彦

東京都世田谷区中町 5-25-5

(72) 発明者 本村 有斗

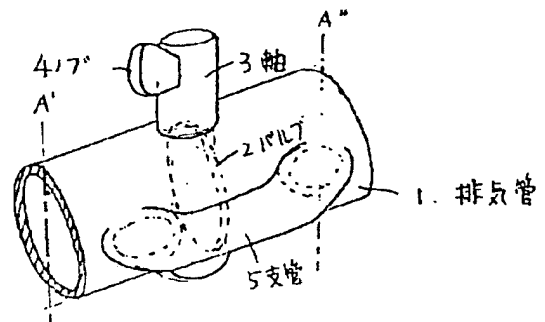
東京都世田谷区桜丘 4-26-26 聖ヶ丘荘
101

(54) 【発明の名称】 排気音消音最調節機

(57) 【要約】

【目的】 暖機運転時や低回転使用時は高回転使用時ほどの排気ガスの排出量はない。このときバルブ (2) の閉め具合により消音効果を高めることができる。このことにより騒音を軽減することが可能である。

【構成】 排気管 1 の中にバルブ 2 を設けバルブが可動するように回転可能な軸 3 とノブ 4 を設け、さらに支管 5 を設けたことを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 排気管（1）の中にバルブ（2）を設け、バルブが可動となるように、回転できる軸（3）とノブ（4）を取り付け、さらに支管を設けた消音量調節機。

【発明の詳細な説明】

【001】

【産業上の利用分野】 この発明は排気管に可動バルブと支管を取りつけた排気音の消音量調節に関するものである。

【002】

【従来の技術】 従来、排気音は時間や環境、またエンジン回転数に関係なく一定の消音能力であった。

【003】

【発明が解決しようとする課題】 これは次のような欠点があった。

（イ）住宅や人の集まる地域での排気音問題

（ロ）暖機運転時、渋滞時等のエンジン低回転時の騒音

（ハ）消音効果を高めた際のエンジン高回転時における効率低下

【004】

【問題を解決するための手段】 排気管（1）の中にバルブ（2）を設け、バルブが可動となるように、回転できる軸（3）とノブ（4）を取り付け、さらにバルブ全開時に細めの支管を設けより一層消音効果を高めた。この発明は以上のような構成よりなる排気音消音量調節機である。

【005】

【作用】 エンジン作動時 軸（3）を回転させることに

より バルブ（2）、が作動し排気音の消音量を調節することができる。

【006】

【実施例】 以下、発明の実施例について説明する。

（イ）排気管（1）の中に 管をふさぐ型状のバルブ（2）を設けバルブ（2）が可動となるように回転できる軸（3）を取り付ける

（ロ）軸（3）の外部にが手動できるようなノブ（4）等を装着し、さらに排気管に支管を設ける

10 【007】

【発明の効果】 本案は以上のような構造で、これを使用するときは、あらかじめ調節を行ない、その後エンジンを作動させると その効果を発揮できる。バルブ（2）の開閉を軸（3）かノブ（4）等にワイヤーを取り付けることにより運転中も作動が可能にできる。また支管（5）の中に吸音材等（6）組み込む事により、さらに消音効果を高める事ができる

【図面の簡単な説明】

20 【図1】 本発明の斜視図である 排気管の左右はエンジン側を消音器側となる

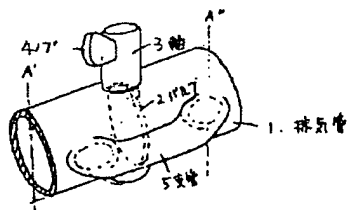
【図2】 図1のA'～A''を切り開き側面から見た図である。Aはバルブ（2）が閉じた図である。Bはバルブ（2）が開いた図である。

【図3】 本発明の他の実施例を上から横割りにして見た図である

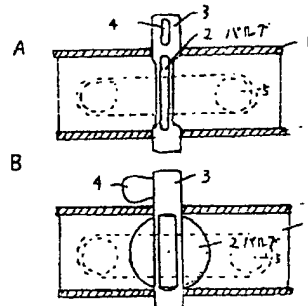
【符号の説明】

1 排気管 2 バルブ 3 軸 4 ノブ
5 支管 6 吸音材

【図1】



【図2】



【図3】

